

生き物バラエティー

水族館へ行こう!

京都大学白浜水族館



水圧仕掛けの管足を伸ばしたヒトデ
(水槽番号215)

子どもから大人にまで人気のある水族館と動物園。どちらも生き物でいっぱい。しかし、どっちの方が多様な生き物がいるだろうか。生物学の立場から見てもみよう。

動物園に行くと、ライオンやキリン、カバ、ゾウ、パンダなどいろいろな動物がいる。どれもヒトと同じ哺乳(ほにゅう)類の仲間である。鳥は鳥類、トカゲは爬虫(はちゅう)類だ。しかし、彼らも背骨を持っているので、哺乳(ほにゅう)類と

水族館と動物園 どっちが多様?

はどっちだろうか。これはヒトデの親類である。

親類同士であり、これをまとめて脊椎(せきつい)動物と呼ぶ。動物園にはいろいろな動物がいるが、実はその多くが脊椎動物なのである。

水族館を見てもみよう。一番多い魚類も背骨があるので脊椎動物の仲間だ。それなら水族館の生き物のバラエティーも動物園と変わらないのだろうか。いや

白浜水族館では他の水族館ではあまり見られない動物を多く展示している。ゴカイ(環形動物)やコケムシ(外肛動物)、ホヤ(尾索(びさく)動物)などの仲間だ。グループごとに分けて展示しているスペースがあるので、生き物のグループ合わせをしても面白い。例えば、ウニやナマコ

いや、水族館にはエビやカニ(節足動物)、貝(軟体動物)もいる。ヒトデ(棘皮(きよくひ)動物)、イソギンチャク(刺胞動物)も見られる。彼らに背骨はなく、それぞれの基本的な体の作りが違つことが分かっていて、進化の過程で別々の道を歩み続けてきた縁遠い動物たちなのだ。水族館はこれだけ違った動物たちが一度に見られる場所である。

その理由は体の中を見ないと分からないことが多いが、外観から分かることもある。これら3種類の共通点は体裏側に歩くための小さないぼ(管足)がたくさんあることだ。彼らは吸い込んだ海水を循環させる水管系を進化させた独特のグループである。そのいぼの動きは、海水で調節する「水圧仕掛け」なのだ。

(京都大学助教)